



駿河舞



特別
凡4
3902
1



門 4
3902
卷 1



駿河系

耕書堂小奇石也架于松之鷄子仙より
と金鶏石と云つてや佐流石と云ふより
深くは石がさうありしと云ふある一乃
露すくおの神をさへもあはれむと云ふ
くるといふことと云ふ根のふくむと云ふ
や深やちまはれをさうと云ふれと云ふ
至そを採く已うと云ふの二物と云ふ

昭和二三
六月
東京

人あそびをせしむる心もくもくやしむる
耕を業よきまの作のきぬにこれとくま
之を無集やうらまの鳥虎北居信かきん
よりとみよ梓子のほまき四方よはら
しめんよまうの我よ好きせよ是よ教よ
不ありとせしむるの復函をゆてうやく
しををいひたるはふんをの金鷄系
奇石ありきもこれるや平よありとくはが

葛山人乃鳥石よお解しるありあり
あもふあもかあまのあまのあまのあ
せつふあれれれれれれれれれれれれ
旅をよひ女の天れ羽衣をぬきしして
駿河の森といふらけける

寛政二戊子卯
奇姓
金鷄
一



十のり上ノ二

南阿散人
帳翁

又
あ
し
ふ



湯島
世中此
人
あ
し
ふ
天々
下谷

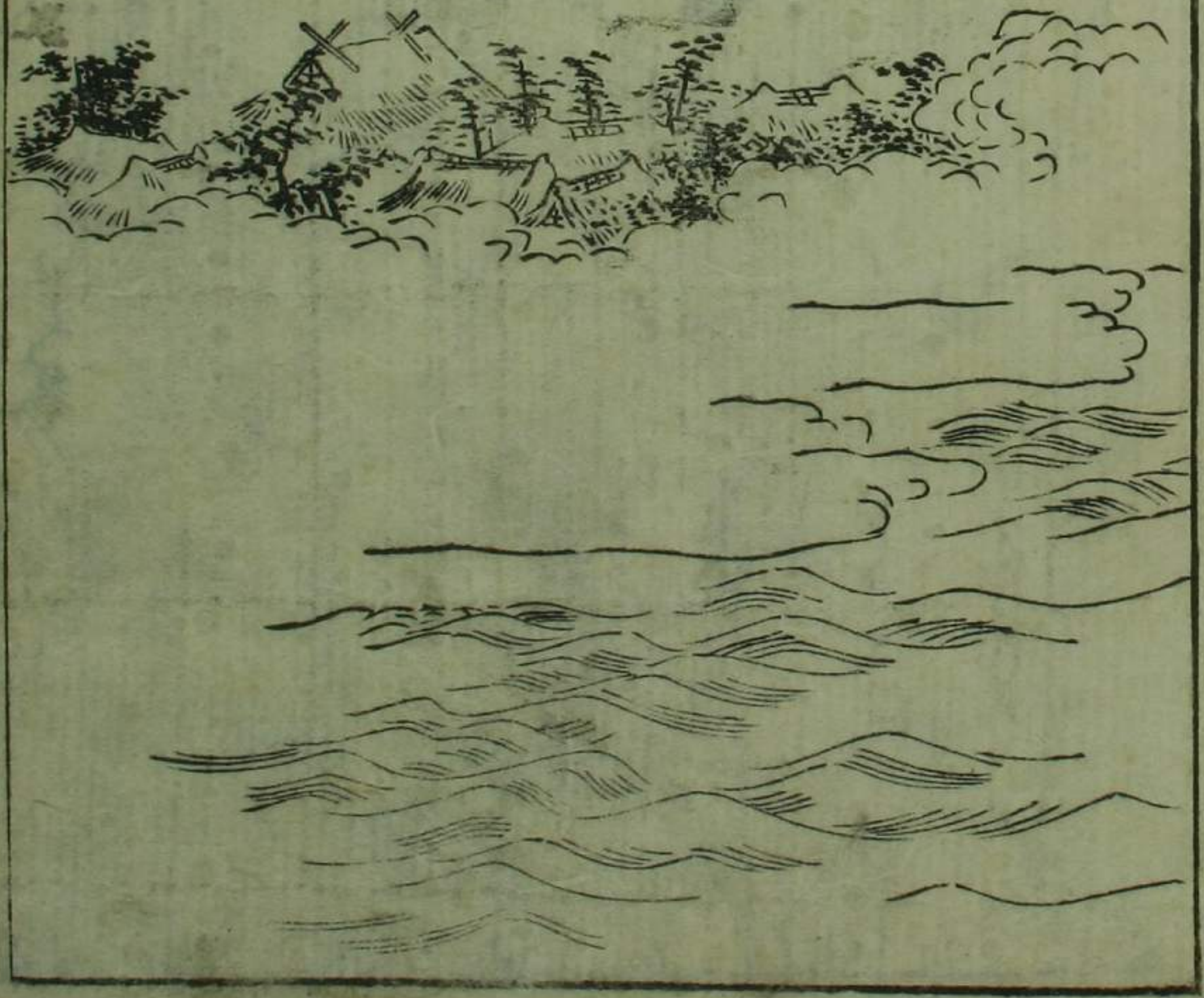


下谷上三

小判長丸

辰波

帆
小
又由海
早



佃島

よしの

松小

からこれ

か
船



すゝし
上ノ四



十のり上ノ五



上ノ六





十
 上
 八



甘月場丁
 桂木や乃
 さんせし
 ろんか
 美師お
 ろん
 花と
 かし
 のち

美隣

十
上
九

